

- 会議名 2022年度京都府がん医療戦略推進会議 外来化学療法部会意見交換会
- 日時 令和4年5月20日(金) 18:00~18:40
- 場所 WEB会議(Webex使用)
- 出席者

京都府立医科大学附属病院、京都市立病院、京都第二赤十字病院、京都桂病院、市立福知山市民病院、京都岡本記念病院、宇治徳洲会病院、綾部市立病院、京都中部総合医療C、京都北部医療C、京都府健康対策課、京都大学医学部附属病院

■要旨

▼本日の議論

- ①今後京都府内における化学療法の実施施設と緩和ケア施設の連携体制を継続していく必要性について
- ②今回提示する内容以外も含め、がん治療と緩和の連携に係る課題の洗い出しを行い、日常診療でもスムーズに連携していける体制をつくりたい
- ③京都府民のための情報提供の在り方について
→緩和ケアに係る情報提供の見直しの動きに合わせてがん治療全般の情報提供に係る課題も再度検討

- ・化学療法から緩和ケアに移行する場合に、どこの施設がどれだけ空いてるかという情報共有があまりできていない。
- ・緩和ケア施設の情報京都府でも患者さんに向けてHPで情報発信していただくことで、患者さんも情報にアクセスしやすくなるし、我々にとっても負担が減ると考えている。
- ・連携の課題をどのように解決するか、緩和ケア部会や緩和ケア連絡会とも話し合いを行った。緩和ケアの方はバプテスト病院の山極先生が中心になって取りまとめており、ある程度すり合わせができています。

▼スライドに沿って経緯を説明

「緩和ケア施設との連携強化」に向けた状況共有・論点整理

1. コロナ禍で運用開始した「京都PCU運営状況共有システム(Google Drive)」について
→持続可能なPCU空床情報管理システムの実装について、京都府を中心に検討中
2. 京都共通の“PCU申し込み用紙(相談用紙)”
→京都PCU連絡会のワーキンググループで作成中。
3. 京都府民のための、府ホームページでのPCU情報提供サービス
→緩和ケア部会での議論をもとに、京都府健康対策課を中心に整備作業中。
4. 「緩和ケア施設との連携強化」に向けた進捗状況・論点のまとめ

▼連携の必要性について、各施設からの意見

- ・化学療法と緩和ケアは一緒にやっているとけないと思う。

- ・本院は院内で緩和ケアのチームと化学療法のチームが連携しており、ほとんど自己完結ができていますが、化学療法が終わった時にホスピスや緩和ケア病棟を希望する患者さんもいるため早い段階から連携を組んでいけば移行もスムーズにいくのではないかと思いますので、京都府の中での情報が常に入っている環境がほしいと思う。PCUの連携に入りたい。
- ・当院も緩和ケア病棟はあるが、あまり連携が取れている状態ではなく、実際に化学療法中に患者さんが弱っていった患者さんがホスピス希望されてからホスピスを探したりするので、連携の枠組みがあると助かる。
- ・当院は緩和ケア病棟が無いのでホスピスの紹介等はかなり早くから準備をするようにしている。化学療法が終了する前の段階からお話を開始し、面談に行っていたらいい。その時に先ほどのシステムで情報が分かるので非常に役立っている。
- ・当院は院内で完結できる状態ではあるが、他施設を希望される患者さんもいらっしゃるので情報が入ることは重要であると考えている。
- ・当院も緩和ケアはあるが、コロナの影響で規模が縮小しているので、先ほどのシステムを活用し、他の緩和ケアにも早い段階からできるだけ面談するようにしていただいている。
- ・周囲に緩和ケア病棟が無いということもあって、化学療法終了後は在宅をすすめるパターンも多いがなかなか難しく、そのまま当院に入院されるパターンもある。連携がとれれば、ご家族が京都市内在住ということもあるので、情報がタイムリーに共有できれば在宅支援や緩和ケアのニーズが増えるかと思う。
- ・緩和ケア病棟は無いが、訪問診療に力を入れており、在宅看取りを行っているが、舞鶴や綾部の患者さんもおられるので、舞鶴医療センターに緩和ケアをお願いすることもあり、情報共有ができればと思う。県境のため兵庫県の丹波医療センターや八鹿病院に行ってもらっても多いので都道府県を跨いで情報共有できれば嬉しい。
- ・当院も緩和ケア病棟は無いが、がん治療と緩和は切り離せないところがあり、ぜひ情報共有のシステムについて進めていただきたい。患者さんのご家族が他府県にいる場などもあると思うので、他府県とシステムを共有できるとよいと思う。
- ・丹後医療圏も緩和ケア病床が舞鶴医療センターにしか無いので、距離が遠いのとコロナ禍もあり在宅を希望される方が増えている印象である。京都府のほうから情報が共有されることは患者さんにとっても良いと思う。ご家族が市内に住んでおられる場合が多いので、情報が得られるのは非常に助かる。
- ・皆様のご意見により市内から離れている施設でもニーズがあることが分かった。
国がんのHPから情報が無くなってしまった経緯は？→調べて共有します
- ・リアルタイム制が難しいので誰が管理するのが問題になると思うので、京都府で管理していただいて即時性のあるものを作っていただければと思う。
- ・京都府が協力するにあたって、今後こういった形で関与するか、協議次第になってくるができることは協力させていただきたい。必要な情報が府域全域に、どの地域に住んでいても得られるようにしていきたい。

▼その他

- ・予算については？
- 情報をHPに載せるのは大丈夫だが、入れ込んだシステムを導入するには業者に頼まないといけないので、予算が発生する。手動で情報を随時更新していくのは、人力にはなるが可能である。
- ・京都府のHPで緩和ケア病院のリストや地図を載せるのは？
- リンクを開いたらExcelのデータが見れるようにするのはできる。

クリックしてエリアを選んでいくようなものは難しいかもしれないが、マップ自体を挿絵（画像）として掲載するのはできると思う。

▼まとめ

- ・本日の意見交換により、皆さんが連携の必要性を感じていることが分かった。
- ・エリアや自施設に緩和ケアを持っているかどうかに関わらずニーズは比較的あり、反対意見は無かった。
- ・実務的に動いている連絡会の意見を緩和ケア部会にあげていただいて、化学療法部会と緩和ケア部会合同で京都府と連携しながら何らかの形で患者さんに情報提供できるような仕組みを作り、うまく回るようであれば京都府で予算もつけていただき年度ごとにバージョンアップしていきたい。
- ・近隣の府県にもつながって連携できれば一番良いと思う。患者さんやご家族から好評を得られればもっとやりやすくなると思う。

▼今後の予定など

- ・7月～8月頃に、京都府の化学療法部会と緩和ケア部会で2年前と同じような合同会議を行い、率直な意見を交換していただき、意見を取りまとめる。
- ・9月頃に京都府にもはたらきかけて、行政でも何か対策を練っていただくようにしたい。

以上